


中学校 国語A

9 設問 一 二 出題の趣旨

- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかみる。

<p>二 漢字を正しく読む。</p> <p>1 詳細に述べる。</p> <p>2 シャツの袖をまくる。</p> <p>3 学校のことが新聞に載る。</p>	<p>一 漢字を正しく書く。</p> <p>1 ビヨウソク五メートルの風が吹く。</p> <p>2 地図のシユクシヤクを調べる。</p> <p>3 アマったお金を貯金する。</p>		<p>学年配当</p> <p>「秒」 小学校第3学年</p> <p>「速」 小学校第3学年</p> <p>「縮」 小学校第6学年</p> <p>「尺」 小学校第6学年</p> <p>「余」 小学校第5学年</p> <p>「詳」 常用漢字</p> <p>「細」 小学校第2学年</p> <p>「袖」 常用漢字</p> <p>「載」 常用漢字</p>
---	--	---	--

設問 三 四 出題の趣旨

- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。
- ・単語の類別について理解しているかどうかをみる。

漢字、語句、単語ともに、小学校で学習したものが、多く出題されていることが分かります。

小学校の学習が土台となり、中学校の学習が成立していることが分かります。



四 次の文章の①と②に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの1から4までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

私は伝えたい内容が明確になるように、次のアの文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引き付けたことが伝わります。これは「青い」という①を、「青さ」という②に変えて、主語にしているためです。

ア 大きな青い器が私の目を引き付けた。

イ 大きな器の青さが私の目を引き付けた。

- 1 名詞 2 動詞 3 形容詞 4 形容動詞

三 次のアからオの文では、最も適切な言葉を、カの文では、線部に当てはまる漢字として正しいものを、それぞれ()の1から4までのの中から一つ選びなさい。

ア 将来は、(1気象 2気性 3起床 4希少) 予報士になりたい。

イ 彼がこの討論の(1火種 2点火 3火薬 4口火)を切った。

ウ 私が先生のお宅に(1承ります 2いただきます 3参ります 4いらっしゃいます)。

エ 彼女は、学級の(1縁 2床 3板 4面)の下の力持ちと言える存在だ。

オ (1たてこもる 2たちならぶ 3たなびく 4たたずむ) 雲の間から、春の光がもれている。

カ 新聞を読むシユウカン(1間 2慣 3刊 4感)を身に付ける。

学習指導に当たって大切なこと

- 文脈の中で適切に使えるようにする。
 - 既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れる。
- ※ 「常用漢字表」の改訂に伴い、中学校学習指導要領の「漢字に関する事項」が一部改正されている(平成22年11月30日文科省告示第161号)。このことを踏まえて指導する。
- 語句の辞書的な意味を基にして、文脈の中での意味を捉える。
 - 話や文章の中で実際に使われている語句の意味を考え、似た意味を表す別の言葉に言い換えてみる。



小学校で学習した漢字や語句が多く出題されています。中学校においては、授業中に漢字や語句を指導する時間が十分にとれないと思います。隙間時間や家庭学習、豆テスト等を効果的に活用してください。

また、中学校区での小中連携事業の際、漢字練習などの家庭学習について、小中一貫した指導法を協議し実践することが、定着を高める上で有効です。

※ 今後、つなぐ教育での実践も紹介します。